

第3学年 外国語科学習指導案

1 単元名

Let's Read2 Robots Make Dreams Come True (Here We Go English Course3)

2 単元について

○教材観

本単元では、私たちの生活に身近な存在となったロボットについて取り扱う。ロボットは単なる機械ではなく、人々の生活を豊かにし、社会の課題解決に貢献するツールである。現に、障害者支援、高齢者介護、医療、教育など、様々な分野で活躍している。例えば、身体機能に制限のある人々に対しては、義肢や義足、車椅子など、ロボット技術を活用したデバイスが提供され、社会参加を促進している。また、高齢者に対しては、介護支援ロボットや移動支援ロボットが、自立した生活をサポートし、QOL の向上に貢献している。

ロボットは、単に現在の問題を解決するだけでなく、未来の社会を形作る重要な要素である。本教材を通じて、生徒はロボット技術の進歩がもたらす可能性と課題について深く考え、未来の社会をどのように創っていくべきかについて議論する。

そして、持続可能な未来の社会を創っていく上で必要な SDGs10 番目の目標「人や国の不平等をなくそう」にあるように、すべての人が、能力を高め、社会的、経済的、政治的に取り残されない社会の実現に向け、ロボットそのものだけでなく、ロボットを必要としている人たちに目を向け、自分事として課題を受け止めるとともに、よりよい社会の実現に向けて行動しようとする意識を高められる指導を、この単元を通して行いたいと考える。

○生徒観

本学級の生徒は、中学校入学時から帯活動として写真や教科書の挿絵等を見て、英語でその状況や関連する事柄について説明したり、口頭で説明したことをもとに書く活動を行ったりしてきた。ペアやグループで活動する中で、自分自身の英語表現の正確さや豊かさを学び合い、教師がフィードバックすることで、動機付けを行ってきた。生徒は話すこと・書くことに対して継続して意欲的に取り組んでいる。外国語に対する意識は、個人差はあるが、どの生徒もあきらめずに挑戦しようとする姿勢をもっている。

今年度、Unit1 では、ある日の日記を書く活動を行った。生徒は、受け身の文、let(help)+人・もの+動詞の原形、tell+人+that~などの表現を使い、学校紹介の記事から、日本の学校と世界の学校の違いを読み取り、日本の学校生活について触れながら、自分の意見を外国の生徒に伝えることができた。

Unit2 では、生徒たちは自分たちが実際に行った京都への修学旅行のことで、教科書の登場人物たちの修学旅行に重ね合わせながら学習を行った。生徒は、現在完了形(経験)を活用し、ALT の David 先生や Tomas 先生に、夏休みの旅行プランをつくってもらうために、日本のおすすめの場所を提案した。

Unit3 では、広島平和記念公園が舞台となる。生徒は、現在完了形(継続)や不定詞に代わる It の構文などを活用し、平和や戦争についてのレポートや手記などを読み、自分が感じたことや考えたことを世界の人々に発信するために、SNS に載せる意見文を書くことに取り組んだ。

Unit4 では、AI 技術と言語についての議論を読み、自分の意見を書いた。生徒は関係代名詞 which/who/that を使用し、相手に自分の意図がより詳しく伝わるように工夫して書くことができた。また、

誰かの意見を引用したり、賛成や反対の立場を明確にする表現を使用したりすることで、読み手を意識して自分の意見を理解してもらおうとする意識をもつことができた。

本単元では、これまでに学習してきたことを活用しながら、ロボットを必要としている人たちに目を向け、自分事として受け止めて、よりよい社会の実現に向けて自ら関わろうとする生徒を育成できるよう指導したい。

○指導観

本単元の指導にあたっては、全3時間の構成で行う。第1時では、身近なロボットについて Have you ever seen a robot? という話題の Small Talk を行い、生徒の経験から今回の単元のテーマについての興味や関心を引き出したい。また、生徒が教科書に登場する様々なロボットの働きを予想したり、教科書の説明文の概要を捉えたりできるよう、学習者用デジタル教科書を使い、ロボットの名称や写真を活用しながら、T-S インタクションを行う。これらのロボットについて生徒が説明する活動を行う中で、関係代名詞 which/who/that の意味や用法を理解することができるよう指導したい。第2時では、ロボット開発者の吉藤健太郎さんが、自由に体を動かせない現状を打開し、社会とつながりたいと考える永廣さんたちの思いを受けて開発した Orihime についての説明文を読む。単元の目標を意識させ、永廣さんが感じた Orihime を通じて得た社会とつながることの喜びや今後の目標に対しての意欲を読み取り、なぜ吉藤さんがこのようなロボットを作ったか、Orihime の開発によって社会や人はどのように変化したか、などを考えることで吉藤さんの仕事の価値や私たちが生きる社会をよりよくしようとする意志の大切さを実感させたい。第3時では、第1時・第2時の学習を受け、ロボット科学者の吉藤健太郎さんにこれからも困っている人のためのロボットを作り続けてもらうために、吉藤さんの取組の価値や功績に触れながら、吉藤さんが社会をよくするためにさらに頑張ろうと思えるようなメッセージをまとめる。生徒は教科書の説明文を読み、時に永廣さんたち Orihime のユーザーの経験談を引用しながら、自分の思いや考えを付け加え、吉藤さんの活動に社会をよくするための価値があることに触れ、今後の活動のモチベーションにつながるようなメッセージとなるよう、指導したい。

この単元を通して、生徒が自分の生きる社会やそこに存在する課題に向き合い、持続可能な社会の実現に向けて行動しようとする大切さを改めて感じる機会としたい。

3 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標（第3学年）

読むこと	書くこと
社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた500語程度の文章の要点を捉えることができる。	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて要点を捉え、考えたことや感じたこと、その理由などを、論点を明らかにしたり、順序立てたりして、簡単な語句や文を用いて書くことができる。

4 Yamanashi English Action との関わり

小・中学校における外国語教育において、小・中学校と一貫してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するため、小学校では中学年から外国語活動の導入及び高学年から教科として系統的な指導を行うこと、中学校では対話的な言語活動を重視し、授業は英語で行うことを基本とすることと示されている。また、全国学力学習状況調査、英語教育実施状況調査等から明らかになった課題を解決するため、計画的な英語教育の改善に一層取り組んでいく必要がある。

これらを踏まえ、山梨県教育委員会義務教育課では、「全県の小・中学校における授業改善を通して、外部検定試験等の客観的データを基に、4技能をバランスよく育成し、児童生徒の英語力向上を確実に図る。」ことを目的とし、Yamanashi English Action を推進している。そのなかでも「質の高い言語活動」、「英語による発話を基本とすること」「知識及び技能の習得」をキーワードとしている。

塩山中学校においては、昨年度の山梨県英語教育改善プラン推進事業を通し、小学校での学びを生かした「話すこと」の指導、言語活動の目的・場面・状況に応じた言語面と内容面を意識した中間指導の改善、社会的な話題への系統的な指導と評価の工夫に取り組んだ。生徒の英語力を測る外部検定試験の結果分析では、生徒の発信力、特に「書くこと」の力の向上が見られた。

今年度も引き続き、「話すこと」においては即興的なやり取りに重点を置き、小学校から積み重ねてきた表現や中学校での既習表現を繰り返し活用できる場面を工夫する。「話すこと」の目的・場面・状況を生徒が意識できるようにすることで、内容面・言語面ともに、充実するような中間指導の在り方を英語科全体で取り組んでいる。また、ICT を活用して、生徒が学習者用デジタル教科書やクラウドツールを使いながら、個別最適な学び・協働的な学びを往還し、必要な知識を自ら選択して表現につなげられるような支援の在り方、環境づくりにも努めている。

一方で、外部検定試験において「読むこと」のスコアに課題が見られた。「読むこと」に関しては、まとまった量の英文の内容を、生徒が自らの力で読み進めたり、読んで理解したことを自分の言葉で表現したりする機会を意識して設けている。また、読むことの目的・場面・状況の設定、発問の工夫、生徒対生徒・生徒対指導者・生徒対 ALT のやり取りを充実させながら、生徒自身が読んだ内容をより深く理解したり、自分事として捉えたりすることで、「書くこと」「話すこと」へとつながる領域統合型の言語活動に取り組んでいる。

5 単元の目標

社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、ロボット科学者の吉藤健太郎さんが社会をよくするためにさらに頑張ろうと思えるようなメッセージをまとめることができる。

6 言語材料

○表現

come true、a variety of ~、more and more、again and again、make friends with、connect ~ with、I wish I could~.

○語彙

imagine、character(s)、human、factory、modern、variety、shape、improve、above、suit、rescue、dangerous、nuclear、power、power station、NASA、develop(ing)、explore、international、send、sent、reach、Mars、severe、physical、disability、autumn、user、disease、body、control、movement、microphone、service、advice、connect、society

7 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	- 既習表現や関係代名詞に関する事項を理解している。 - 既習表現や関係代名詞の意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身に付けている。	社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要を捉えることができる。	社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要を捉えようとしている。
書くこと	- 既習表現を用いた文の構造を理解している。 - 既習表現を用いて書く技術を身に付けている。	ロボット科学者である吉藤さんの取組の価値や功績に触れながら、吉藤さんが社会をよくするためにさらに頑張ろうと思えるようなメッセージをまとめることができる。	ロボット科学者である吉藤さんの取組の価値や功績に触れながら、吉藤さんが社会をよくするためにさらに頑張ろうと思えるようなメッセージをまとめようとしている。

便宜上、以下のように示す。

ア:「読むこと」知識・技能 イ:「読むこと」思考・判断・表現

ウ:「読むこと」主体的に学習に取り組む態度

エ:「書くこと」知識・技能 オ:「書くこと」思考・判断・表現

カ:「書くこと」主体的に学習に取り組む態度

8 単元の指導と評価の計画（全3時間）

時間	目標(◆) 主な言語活動(○)	評価			
		知	思	態	◎評価規準〈評価方法〉
1	◆ストーリーの話題を予測し、おおまかな内容をつかむ。 ◆単元のゴールを生徒と共有する。 ◆関係代名詞の意味・形・使い方を理解する。 ○教科書 p.60-61 絵やロボットの名称を見て、話題を予測する。 ○説明文を通して読んで、おおまかな内容をつかむ。 ○説明文に登場したロボットを簡単に説明する。	読			◎評価規準 ア 〈forms への回答〉
2 本時	◆社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要を捉えることができる。 ○p.62-63 の記事を読んで、内容を理解する。 ○p.62-63 の記事の内容について、Small Talk で自分の考えを伝える。 ○吉藤氏の活動に対する自分の考えを spreadsheet に書き出す。		読	読	◎評価規準 イ・ウ 〈spreadsheet への記述〉

3	◆ロボット科学者である吉藤さんの取組の価値や功績に触れながら、吉藤さんが社会をよくするためにさらに頑張ろうと思えるようなメッセージをまとめることができる。 ○前回のメモを振り返る。 ○吉藤さんの功績について Small Talk で意見交換する。 ○吉藤さんに伝えたいメッセージを document に書く。〈パフォーマンス課題〉 ○活動を振り返って自己評価をする。	書	書	書	◎評価規準 エ・オ・カ 〈document の提出〉
---	--	---	---	---	--

《パフォーマンス課題について》

◎パフォーマンス課題の内容

永廣さんをはじめ、多くの体が不自由な方たちの「働きたい、社会に参加したい」という強い希望を、吉藤さんは OriHime の開発を通して、実現してきました。ロボット科学者である吉藤さんの取組の大切さやこれまでの活動の成果に触れながら、吉藤さんが社会をよくするためにさらにロボット開発を頑張ろうと思えるようなメッセージを書きましょう。

◎パフォーマンス課題におけるルーブリック（評価基準）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	ロボット科学者である吉藤さんの取組の価値や功績に触れながら、吉藤さんが社会をよくするためにさらに頑張ろうと思えるようなメッセージを、自分の考えやその理由を述べながらまとめることができる。	ロボット科学者である吉藤さんの取組の価値や功績に触れながら、吉藤さんが社会をよくするためにさらに頑張ろうと思えるようなメッセージを、自分の考えやその理由を述べながらまとめるようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	ロボット科学者である吉藤さんの取組の価値や功績に触れながら、吉藤さんが社会をよくするためにさらに頑張ろうと思えるようなメッセージをまとめることができる。	ロボット科学者である吉藤さんの取組の価値や功績に触れながら、吉藤さんが社会をよくするためにさらに頑張ろうと思えるようなメッセージをまとめるようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

◎パフォーマンス課題における具体的なゴール例（下線部は a 評価）

I read your article about OriHime. I think you are great because you made the robot and help people with severe physical disabilities. Mr. Nagahiro says, “I want to work like other people.” Thanks to your robot, his dream came true. He cannot move his body, but he can control OriHime with small movements of his finger. Your robot makes people happy. There are a lot of people who are in trouble in the world. They need robots like OriHime. I want you to make many robots and help people more. Thank you.

- | | |
|----|--|
| 場面 | <ul style="list-style-type: none"> ● 社会の様々な場所でロボットが活躍している。 ● ロボットが人々の夢の実現にどのように携わっているか。 |
| 状況 | <ul style="list-style-type: none"> ● 最初に OriHime を使った人は、働くことの苦勞も楽しさも知ることができた。 ● OriHime の開発者は、障害を持つ方々にたくさん出会い、彼らの「社会とのつながりを持ちたい」という思いを知った。 |



- | | |
|----|---|
| 目的 | 開発者の方が、社会をより良くするロボット研究をさらに頑張ろうと思えるように、彼の功績に触れながら、 |
| 行動 | 社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、開発者にメッセージを書こう。 |

9 本時の学習

(1) 日時 令和6年10月3日(木)5校時 13:30~14:20

(2) 場所 塩山中学校 南館2階 多目的室

(3) 目標 社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、自分の意見や考えを伝えるために、記事の概要を捉えることができる。

(4) 展開

時間	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点 ◎評価規準〈評価方法〉
1分	【Greeting】 ・あいさつをする。 (授業前、デザインシートに本日の曜日、日付、天気を入力しておく。)	・あいさつをする。 ・曜日、日付、天気をつづりを確認する。	
3分	【Today's goal】 ・本時の目標を確認する。 ・単元の目標と本時の目標のつながりを理解する。	・単元の目標と本時の目標はスプレッドシートに提示する。	
	Goal: 吉藤さんへのメッセージ内容をより詳しくするために、OriHime に関する記事を読んで、記事の大事な部分をとらえよう。		
		・ルーブリックを提示し、a 評価と b 評価の違いについて問う。	

5 分	【Teacher's Talk】 ・授業者とインタラクションしながら、記事の内容を推測する。 (OriHime) What ' s the title? / Please look at the picture on p.62. This is the robot OriHime. / Where is OriHime? / Who controls OriHime? / Who is Mr. Nagahiro? (吉 藤 さん) Please look at the picture on p.63. / Who is this? / What did he do? ・単元の目標を再確認する。	・デジタル教科書をモニターに提示する。 ・生徒とインタラクションしながら、記事に登場する人物やものについて、教科書の写真や日本語をヒントにして、簡単な内容やイメージを確認、共有する。	
16 分	【Reading Tasks】 ・記事を読み、質問の答えを見つけ、デジタル教科書上にマーカーで色をつけたり、メモを取ったりしていく。 ・必要があればペアやグループで話し合う。 How many paragraphs do you have? ※網掛けは推論発問 «1st paragraph» People with severe <u>physical disabilities</u> have a <u>dream</u>. What is the dream? / What can help these people? / It's a staff robot … «2nd paragraph» Who uses OriHime? / Who is <u>Mr. Nagahiro</u>? Please tell me about Mr. Nagahiro. Is he healthy? / He didn't have any job before. Why? / Mr. Nagahiro controls OriHime. How? He watches customers. How? He can talk with customers. How? / Where is Mr. Nagahiro? Please guess. «3rd paragraph» On the first day of his job at the	・段落ごとに概要を捉えるために、事実発問や推論発問をする。 ・段落ごとに概要を捉える意識を持てるように、発問の際、該当箇所のデジタル教科書をモニターに写す。 ・ポイントとなる単語の意味や発音を確認する。 (physical disabilities、disease、instead of、live、through microphone、small movement、make friends with、tough、etc.) ・場合によっては、内容理解に必要な写真を提示する。	

	cafe、what was <u>difficult</u> for Mr. Nagahiro? / <u>Do you want to work in a café?</u> / He wanted to <u>improve</u> his service skill. So he talked to another OriHime user. He wanted some advice. ≪4th paragraph≫ The other OriHime user gave Mr. Nagahiro an <u>advice</u>. What <u>should</u> he do at a café? ≪5th paragraph≫ Mr. Nagahiro says、 “<u>Working is tough、 but it’s fun.</u>” What was fun for Mr. Nagahiro? What do you think?		
5 分	【Small Talk】 ・第6段落を音読する。 ・<u>What do you think about the robot scientist Mr. Yoshifuji?</u>というトピックについて、ペアで話す。 ・ペアを替えながら、2～3回話す。	・全体で音読する。(リピート) ・中間指導を加え、言語面と内容面の充実を図る。 ・a 評価に到達させるような意識付けを行う。	〈中間指導の例〉 言語面:I think he is... / He is ... because~ 内容面:理由を付ける、教科書を引用する
15 分	【Your Opinion】 ・吉藤さんの活動について、自分の意見を書く。 ・記事を再度読み返すなどして、自分の意見に対する理由を述べる。	・書き始められない場合は、記事を読み返したり、他の生徒の意見を参考にしたりするように声をかける。 ・OriHime の存在だけでなく、意義について考えられるような問いかけをする。	◎社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、自分の意見や考えを伝えるために、記事の概要を捉えることができる。〈spreadsheet への記述〉
5 分	【Reflection】 ・デザインシートに、本時の授業の振り返りを入力する。 【Greeting】 ・次回の授業の内容を確認する。 ・あいさつする。	・時 間 が あ れ ば 、 spreadsheet の書き込みを取り上げ、振り返りの共有を行う。	

(5) 評価「読むこと」の評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a		社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、自分の意見や考えを伝えるために、英文の要点(重要なポイント)を捉えている。	社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、自分の意見や考えを伝えるために、英文の要点(重要なポイント)を捉えようとしている。
b		社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、英文の要点(重要なポイント)を捉えている。	社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、英文の要点(重要なポイント)を捉えようとしている。
c		「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

10 板書計画

<u>Small Talk</u>	
言語面 I think he is ～.	内容面 smart、 cool、 kind He made ～ He helped ～ OriHime helps ～ OriHime is a robot that～

11 添付資料

振り返りシート

2nd part(1)		単元の目標：社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、ロボット科学者の吉藤健太郎さんが社会を良くするためにさらに頑張ろうと思えるようなメッセージをまとめることができる。				
		今日の目標：吉藤さんへのメッセージ内容をより詳しくするために、OriHimeに関する記事を読んで、記事の大事な部分をとらえよう。 A：社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、自分の意見や考えを伝えるために、英文の要点（重要なポイント）を捉えている。 B：社会に貢献するロボットに関する記事を読んで、英文の要点（重要なポイント）を捉えている。				
No.	Name	Day, Date, Weather	ST自己評価 Keep on talking!	Writing What do you think about Mr. Yoshifuji?	今回の授業で学んだ大事なこと・覚えておきたいこと (この時間のポイントをふまえて)	この時間のポイント自己評価 (A・B・C)
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						